

会議の名称	令和4年度加東市地域密着型サービス運営委員会
開催日時	令和4年7月22日（金） 午後2時00分から午後2時30分まで
開催場所	加東市役所 4階 402会議室
委員長の氏名（小野圭三） 出席委員の氏名	森下智行 小野圭三 大西幹文 深田初枝 丸山信子 小林敏治 山川美枝子
説明のため出席した者の職氏名	
出席した事務局職員の氏名及びその職名	健康福祉部長 大西祥隆 高齢介護課長 平野好美 副課長 堅田美佳 主査 石田将之 地域包括支援センター副課長 高濱さおり 係長 羽馬里恵
議題、会議結果、会議の経過及び資料名	<p>開 会</p> <p>1 委員長・副委員長の選任 委員長は小野圭三委員、副委員長は丸山信子委員に決定する。</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 地域密着型サービスの利用状況について 事務局から説明資料1に基づき説明</p> <p>質疑なし</p> <p>(2) 地域密着型サービス事業の整備計画について 事務局から説明資料2に基づき説明</p> <p>【質疑】 委員： 認知症共同生活介護のグループホームについて、社圏域だけ定員が9人というのは何か意味があるのでしょうか。 事務局： グループホームにつきましては1ユニット9名になっておりまして、滝野地域にはた</p>

きの苑、東条地域には愛の家とうじょうがあり、それらは2ユニット18名となっております。社地域の社すみれホームにつきましては、社すみれ園の併設であり、1ユニット9名となっております。

社すみれホームについては事業の開始が平成21年であり、当時の状況は分かりかねるので推測になりますが、特別養護老人ホームが併設されていることを考慮して1ユニット9名なのかなと思います。ただ、人口は社地域が一番多い地域です。

委員：そうですね。社地域の人口が多いのになぜ9名なのかなと思いました。これは、高齢者が増えているから定員を18名にしないでと言わないのかということを知りたいのと、もうひとつ、小規模多機能型居宅介護の利用者数について、令和元年の869人というのが一番多くて、令和2年度に減って令和3年度にまた上がっているのは、コロナのせいですか。

事務局：小規模多機能型居宅介護の増減については、コロナの影響と考えております。グループホームについては、確認しますと待機者はおられるのですが、空きが出来て連絡すると、申し込みはしているけれどもご家庭の状況によってまだ入所しなくても大丈夫という返答が多いとお聞きしております。

委員：それでも、待機者がいるのであれば定員をふやしたら良いと思うのですが。他の地域が18名でなぜ社だけが9名のままにしているのか、それを増やすのが行政の役目なのではないですか。

認知症の利用者がいて、定員を増やせば入所できる人が増えるのに、他の地域は18名ずつになっていて、なぜ社地域は1ユニット9名しか許可しないのかなと思います。

運営法人に定員を増やすキャパシティがないのであれば仕方がないけれど、あるのであれば増やしてはどうか、というような指導はしないのですか。

事務局：ある程度の金銭的な余裕がある方以外は、ほとんどの方が特別養護老人ホームを第一希望とされている方が非常に多くて、グループホームに申し込まれていても、実際に連絡した際に言われるのは、特別養護老人ホームや老人保健施設とグループホームを比べますと、どうしてもグループホームの方が費用負担が高くなることもあり、特別養護老人ホームに入所できるまで待ちますという返答が多いようです。特別養護老人ホームのショートステイを利用して、そのまま入所できるまで待たれる利用者が多いのですが、ショートステイはスポットで利用していただく制度になっておりますので、本来は長期利用できません。ただ、長期利用する理由として特別養護老人ホームやグループホームに申し込んでいることを条件にしていることもあり、一応申し込むけれども実際に順番がきてみると断る方がいらっしゃるという現状ではあります。

本当に入所したいと思って待機されている方が実際にどれくらいいるのか把握できていないところもありますので、次の第9期介護保険事業計画にはその辺りの状況も踏まえての整備計画になるかなと思います。

委員：社すみれホームとしては、もう1ユニット増やす予定はないのですか。

事務局：空きを埋めるのが難しい状況なので、もう1ユニット増やすという計画は今のところお持ちではないと思います。

委員：認知症の方は増えていく一方で、減ることはないと思います。社地域の定員が少ないのはアンバランスかと思うので、もう1ユニット作れたら良いと思います。

それから、先ほど金銭的なところの話がありましたが、経済力の有無は認知症になる人にとっては関係がないので、お金を持っている人にグループホームに入ってもらったらいい話であって、お金を持っている人が入ろうとしたときに空気がないと入れないので、定員だけでも準備しておいて、入りたい人に入ってもらったらいいと思います。

事務局：今後、聞き取りや給付の状況を勘案しながら、これから次の計画の策定に入っていきますので、入所者のご住所の分析も含めて圏域ごとの需要を把握したいと思います。

委員：社地域の人口が多いのに不思議に思ったので、せっかくならどの地域も2ユニットずつにできればいいと思います。

委員：私の家族が、たきの苑に102歳まで20年近くお世話になっておりました。たきの苑ができるという話を聞いて、見せていただいたときにすごく綺麗で、誰もまだ入っておられない時をお願いして入れてもらいました。

特別養護老人ホームも申し込んでいたのですが、長いこと順番が回ってこなくて、100歳近くのときに空気が出たと連絡いただいて、主治医の先生に相談したんです。そしたら先生が、金銭的に大丈夫なのであれば、特別養護老人ホームが悪いと言っているのではないけれども、みんなが見守ってくれて、一緒に食事したりできる今のたきの苑の生活が合っているのではないかと教えてくださいました。それで102歳まで、20年近くお世話になりました。急に体調が悪くなって入院していた間も、お金はかかりましたが、亡くなるまで部屋を置いたままにしておいて欲しいとお願いしていました。

小規模な施設は良いところがたくさんあって、そのおかげで102歳まで生きられたのかなと思い、主治医の先生に感謝しています。

それで委員がおっしゃったように、自分のことを考えた時に、この定員の人数で私が入れるだろうかと考えてしまいました。特別養護老人ホームにどれくらいお金がかかるか知らないのですが、グループホームはすごくかかりました。

このような会議の場に出させていただいて、自分の体験と重なりましたので、お話させていただきました。

委員長：貴重なご意見と体験談をありがとうございました。

ほかにご質問ございませんでしょうか。

それでは質問がないようですので、本日の議事を終了いたします。

閉 会

令和4年9月13日

委員長 小野 毛三

署名人 深田 初枝

署名人 山川 美枝子